

ホタテガイ養殖管理情報

一部地区の中層水温が25℃を超えました
各地区の水温の状況を確認しましょう

1 海況

海況自動観測ブイの15m層の半旬別平均水温の推移は図1、8月25日時点の陸奥湾中層（10～20m層）の日平均水温は図4のとおりで、水温は昨年と比べると低めですが、平年よりも高めで推移しています。

また、平舘・蓬田・浦田・浜奥内・脇野沢ブイの中層では、日平均水温が25℃を超えました。

2 養殖施設の管理について

新貝と成貝は、20℃で成長が鈍り、以降は中腸腺（ウロ）や貝柱のエネルギーを使い生命を維持しますが、24～25℃で成長が止まり、衰弱し始め、26℃ではへい死の危険性が高まり、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（図2、3）。

稚貝は、水温が23℃を超えると成長は鈍り、24～25℃になると新貝・成貝と同様の経過をたどってへい死に至ります。

	～19℃	20℃	21℃	22℃	23℃	24℃	25℃	26℃	27℃～
稚貝					成長鈍化	成長停止 衰弱		危険	急死
新貝 成貝		成長鈍化				成長停止 衰弱		危険	急死

図2 稚貝、新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

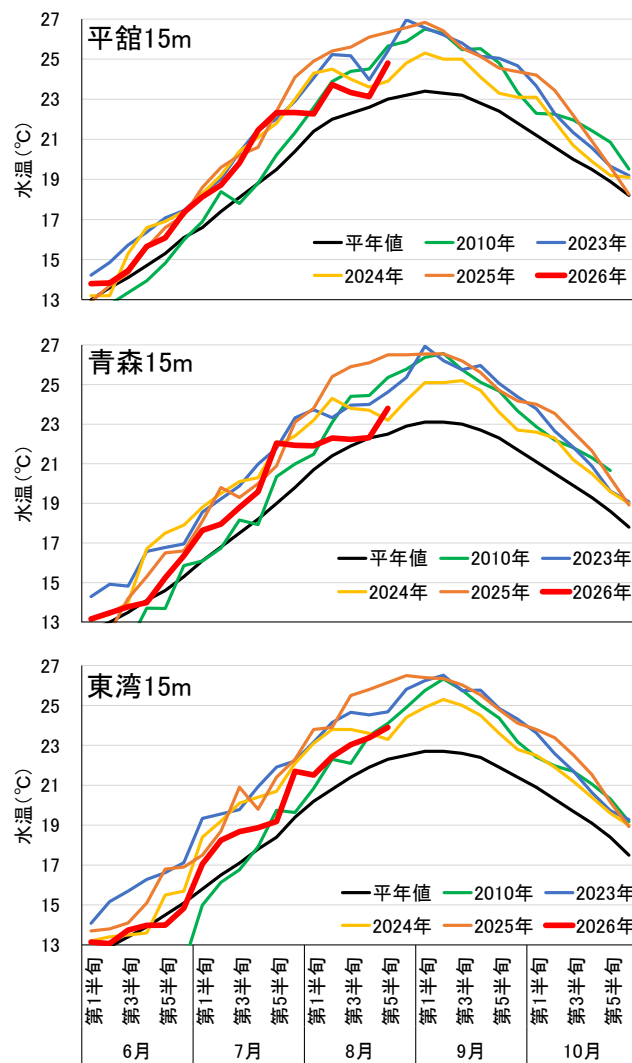


図1 海況自動観測ブイでの15m層の半旬別平均水温の推移

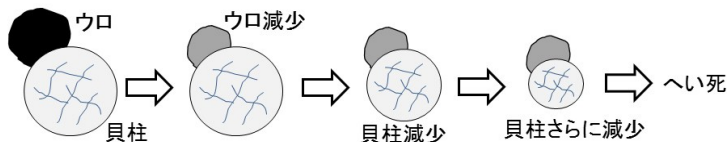


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

今夏の水温は、7月下旬から8月中旬にかけては昨年と比べると低めで推移していましたが、8月下旬に入り上昇し、一部地区の中層で25℃を超えました。高水温でホタテガイが疲弊した状態で施設の上げ下げを行うと、へい死率や異常貝率が高まる傾向がありますので、施設を水温の低い下層に沈めたまま安定させて動かさないでください。また、各地区の水温の状況を確認し、水温が高い場合は、体力の消耗を抑えるために、玉付け、掃除、へい死確認などの作業は行わないでください。

水温の状況や今後の動向は、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード②）を、稚貝の分散時期や作業時の注意事項については今後の養殖管理情報を参考にしてください。



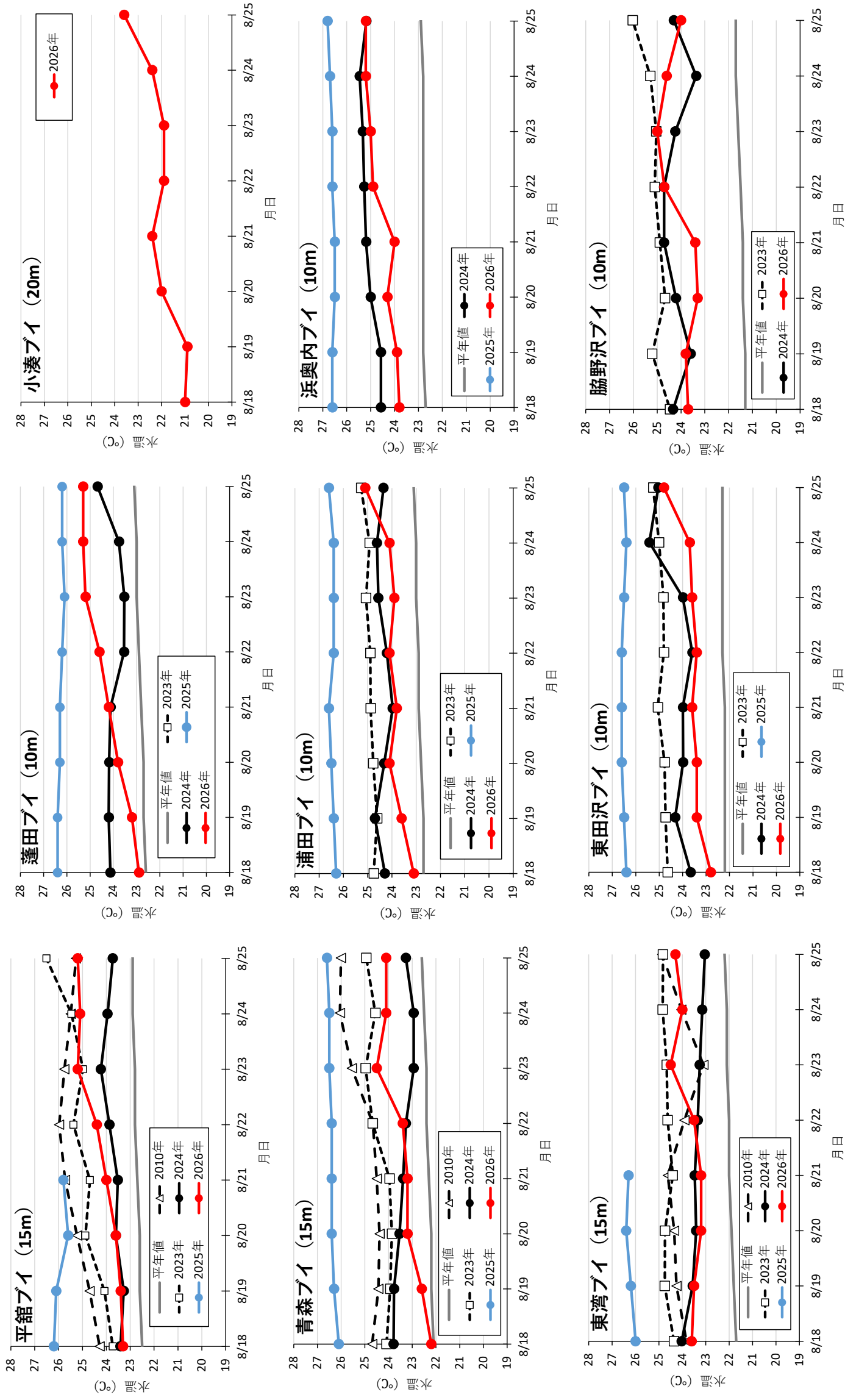


図4 海況自動観測ブイ・水温観測ブイでの中層(10～20m層)の日平均水温